

## 多施設共同での HTLV-1 が生体肝移植の成績に及ぼす影響に関する研究

### はじめに

HTLV-1 陽性レシピエント及び陽性ドナーに対する生体肝移植を実施した 16 施設よりデータ収集を行い、我が国での生体肝移植後の生存率と ATL 発症の危険因子を明らかにします。

### 対象

九州大学病院及び下記の肝移植施設において、1996 年 1 月 1 日以降 2013 年 12 月 31 日までに HTLV-1 陽性レシピエントあるいは陽性ドナーに対する生体肝移植を施行された症例が対象です。事前に全国の肝移植施設に実施した症例数を調査したところ、16 施設より 92 例の該当症例報告あり、全例を対象とします。

研究期間は研究が許可されて以後 2016 年 12 月 31 日までです。

本研究の対象となることを希望されない方はお申し出下さい。

### 方法

16 施設に下記の臨床情報に関するアンケートを送付、収集したデータを検討します。

- ① レシピエント情報：年齢、性別、身長、体重、術前状態（入院、自宅待機など）  
HTLV-1 感染の有無、肝原疾患、Child-Pugh スコア、  
Model for end-stage liver disease (MELD) スコア、転帰、  
術後合併症、術後感染症、死亡症例はその原因、  
術後免疫抑制剤の種類
- ② ドナー情報：年齢、性別、身長、体重、HTLV-1 感染の有無、続柄、転帰、  
術後合併症、死亡症例はその原因
- ③ レシピエント手術情報：手術時間、出血量、グラフト種類、グラフト重量、  
虚血時間、脾臓摘出の有無
- ④ ドナー手術情報：手術時間、出血量

### 研究期間

許可日から 2016 年 12 月 31 日までです。

### 個人情報の管理について

データはすべてコード化し、固有名詞は記号化し、個人の特性を防ぎます。得られた結果は研究目的以外には使用しません。論文や学会等で公表する場合は個人が特定されないようにします。

### 医学上の貢献

HTLV-1 陽性レシピエント及び陽性ドナーにおける生体肝移植後 ATL あるいは HAM 発症の頻度と発症の危険因子を明らかにします。HTLV-1 陽性レシピエント及び陽性ドナーにおける生体肝移植後生存率を明らかにします。

## 研究機関

九州大学病院肝臓・脾臓・門脈・肝臓移植外科及び下記共同研究施設  
愛媛大学肝胆膵・移植外科、大阪大学消化器外科、大阪市立大学肝胆膵外科、  
岡山大学肝・胆・膵外科、京都大学肝胆膵・移植外科、  
京都府立医科大学移植・一般外科、熊本大学小児外科・移植外科、  
慶應義塾大学外科、国立成育医療センター、  
千葉大学先端応用外科、千葉大学臓器制御外科、  
東京大学肝胆膵外科・人工臓器移植外科、東北大学移植・再建・内視鏡外科、  
長崎大学移植・消化器外科、名古屋大学移植外科、  
広島大学消化器・移植外科、北海道大学消化器外科 I

九州大学病院肝臓・脾臓・門脈・肝臓移植外科：前原喜彦（科長）、調 憲（副科長）、  
吉住朋晴、池上 徹

連絡先：〒812-8582 福岡市東区馬出 3-1-1

九州大学大学院消化器・総合外科 吉住朋晴

電話：092-642-5466(直通) E-Mail yosizumi@surg2.med.kyushu-u.ac.jp 吉住朋晴

掲載予定の HP アドレス：<http://www.kyudai2geka.com/>